

基礎科学創造立国 日本 100年の計

自然科学研究機構
分子科学研究所 研究主幹・教授

大森 賢治 氏



教育随想

資源に乏しい我が国が将来にわたって国民の生活レベルを維持し続けるためには、科学技術開発力に頼らざるを得ない。そして、科学技術開発力を持続的に発展させるためには、若手世代の充実に欠かせない。我が国の科学技術政策の中には、国民的関心の高い地球環境保全など、対象とする研究分野を限定した若手研究者支援プログラムがある。しかし、将来の技術革新に結びつくブレイクスルーはどの分野から出てくるか、それは現時点では分からないことの方が多い。例えば、一九〇〇年代初頭に生まれた量子力学は、もともとは電子や原子などミクロな世界を理解したいという純粋な知的好奇心に基づいて生み出されたものであるが、それから百年近くが経った今、我々の日常生活のかんりの部分はコンピュータやコンパクトディスクなど、量子力学の応用製品に依存している。これは量子力学の創設者であるボーアもハイゼンベルグも全く予想していなかったはずだ。人工衛星は古典力学がなければ動かないが、ニュートンは人工衛星を知らない。これからの

日本の科学技術を担う優秀な若者を狭い分野に押し込むことがあってはならない。出口イメージを限定しない基礎的な研究とそれを支える知的好奇心に溢れた人材の教育をこれからもできるだけ維持していかなければいけない。一方、現在は科学者を志す若者が受け入れるポストが不足しており、科学の道に進むことがリスクの高い進路選択になってしまっている。本来科学者を志すべき若手の優秀な人材を、他の分野や外国に奪われないようにするためには、これから科学者を志す若者に安心感を与えるような環境作りをすることも重要である。例えばドイツやフランスには、マックスプランク研究所やCNRSといった仕組みがあり、そこには安定な研究者ポストが規模感を持って用意されている。このような受け皿作りを強化し、若者に科学者のキャリアパスを明確に示すことが必要だ。企業もこの受け皿の一つであってほしい。欧米には、基礎科学で博士号を取得した後に企業で活躍する人が桁違いに多い。先日、量子物理学の国際会



(おおもり けんじ)

議で米国の某トップIT企業の研究開発を指揮する物理学博士と仲良くなった。製品開発に直結する研究ばかりでなく、基礎研究で世界をリードする超一流の実験物理学者だ。「基礎研究では一切特許を取らない」ということにも驚いたが、もっと驚いたのは彼がこともなげにこう言ったときだ。「俺はこの会社に入る前に会社を二つ潰しているんだ」。米国の底力を垣間見たような気がした。



平成24年12月1日

12月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
自然科学研究機構 分子科学研究所 研究主幹・教授 大森 賢治氏	
この人に聞く	2
ロンドンオリンピック 卓球審判員 真野 隆子氏	
羅 針 盤	2
矢作北小 校長 夏目 恒男	
ふれあい	3
葵中 秀野 亜友	
特 集	4
寄ってみりん「道の駅藤川宿」 ＝藤川地区整備事業＝	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
学級対抗歌合戦	
この本を	8

この人に聞く



好奇心や 人との出会いを大切に

ロンドンオリンピック卓球審判員

真野 隆子 氏

ロンドンオリンピックで実際に着用した紺地のジャケット。首元のスカーフと襟の縁取りの水色が鮮やかなその装いからは、上級国際審判員としてののりりしさと誇りが醸し出されてきた。すっと姿勢を伸ばすと、真野さんは穏やかな笑顔で、ロンドンオリンピックに至るまでの日々を振り返って語ってくださった。

「やっぱり出会いって大きいです。人と出会うことによって、感動したり、自分が変わったりますから。」
真野さんと卓球との出会いは、中学時代。高校時代には、高校総体に出場した。結婚後、岡崎市に移り、四十代半ばから英会話やフラワーアレンジメントなどの地域講座で、多くのことに取り組んだ。
そんな中で、いちばん熱中したの

は、やはり卓球だったと言う。

「子供の頃にやっていたということが大きいですね。二、三十年たってもまたやってみようかなと思います。家庭婦人のクラブで卓球をやり始めたのですが、もう楽しくて楽しくてたまらなくなりました。卓球をしていたら、ご機嫌でした。夢中でやっているうちに、よく分からないルールが出てきました。そのとき、審判の講習会があることを、お友達から教えてもらったのです。審判の道に進んだのは、自分が卓球するのルールを覚えようと思って行った講習会がきっかけでした。」

そして、日本語版のルールブックでは難解だった部分が英語版だとすんなり分かったという経験が、国際審判員への関心につながった。

「二〇〇四年、六十歳のときに、アメリカの大会で審判ボランティアを募集していると聞いて、応募したのです。怖いもの知らずなのです。せつかくだから行ってみよう。」

その後、上級国際審判員資格を取得し、二〇一二年、世界で二十四人しか選ばれない、ロンドンオリンピックの卓球審判員として国際卓球連盟から指名されることとなった。

ロンドンオリンピックを振り返って、真野さんの心に強く残ったのは、人との出会いだったと言う。

「審判団の長がドイツの方だったので、リーダーシップが見事でした。ちよつとしたところを見逃さずに、後で必ず声をかけて褒めてくださったの



です。また、アフリカの若い審判員も印象に残っています。はじめはまだまだだった技術が、日に日に伸びていきました。自分のことのようにうれしかったですね。」

人との出会いやつながりを大切に、人生を歩んでこられた真野さん。

これから長い人生を歩んでいく子供たちには、

「大人の敷いたレールばかりでなく、好奇心や人との出会いを大切に、こつこつと少しずつでも前へ歩んでいってほしいと思います。欠点ばかりを気にするのではなく、自分のいいところを見つけて伸ばして行ってほしいですね。」という願いを語ってくださった。

真野さんは、これからも卓球に親しむと共に国際大会で審判を務める。「卓球、大好きです。」

と、朗らかに語る真野さんの、卓球への熱い思いは尽きない。

氏名 まの たかこ

生年月日 昭和十八年八月三日

住所 江口二丁目

羅針盤



心を育てる菊づくり

矢作北小 校長

夏目 恒男

「心を育てるために、生徒たちと一緒に菊づくりをするぞ。」

今は亡き神尾心一師匠(当時、新香山中学校校務主任)が私の肩を叩いた。校務補佐として、師匠に教えられて始めた菊づくり。あれから二十一年、学校は四校を異動したが、それぞれの学校で子供たちと一緒に続けている。

菊づくりは、前年度の卒業生が育てた菊の鉢から挿し芽をして苗を作っていく。まさしく「命のリレー」である。六月の初めから約五か月間に及ぶ一人一鉢活動の始まりだ。本校では、最高学年の六年生が挑戦している。

花の美しさは様々である。野に咲



目指せ、宿題全員提出！

葵中 秀野 亜友

今年度担任することになった二年一組の生徒たちは、自分の意見をどんどん発表する元気の良さ、誰とでもあつという間に打ち解けることのできる温かさをもっている。

ただ気になったのは、決して良いとは言えない宿題の提出状況である。学習習慣を定着させるためにも、宿題を提出できるようにさせたい。素直な子たちだからこそ全員提出を目指そうと思った。

宿題を出せない生徒の一人にA子がいた。A子は、笑顔が素敵でパワフルな女の子である。四月の学年レクリエーションの際には、私をお姫様抱っこして走ってしまうほど元気な姿を見せた。しかし、学習は非常に苦手で、ノートは必死で取るのだが、考えたり発言したりする場面になると、すぐに下を向いてしまう。宿題も、「弟の世話があつて……」などと言い、なかなか出せない。確かに母親が働いているため、小さな

弟の面倒はA子が見ているが、そこに逃げてしまっているのは明白だった。自分だけでやれないなら、A子を含めた宿題を出せないメンバーを集め、休み時間や授業後に、宿題に取り組ませることにした。

しかし、それでもA子の鉛筆を持つ手は動かない。「どうした。」

と聞くと、「だって、分からないもん。」と返ってきた。確かにA子の学力を考えると、解けない問題ばかりだ。そこで、A子の横に座り一緒に答えを写すことから始めた。しばらくの間続けると、次第に自分一人でやって提出するようになった。宿題を出せなかったのは、甘えだけでなく、何をどうしていいのかが分からなかったのだ。

一か月くらいすると、解説を見て計算の途中過程を書いてくるなど、A子の取組みが変わり始めた。今がステップアップさせるときだと思いい、写すだけの状態から一歩進ませようと考えた。と言っても、みんなと同じ問題は解けない。そこで、

「A子スペシャルプリントを作ったから、今日の宿題はこれ。課題テキストに挟んで出せば大丈夫だから。」と、一年生の計算プリントを渡した。翌朝、教室に行くと、大きな声で

「先生、やってきたよ。」と人目も気にせず持ってきた。「おつ、頑張ったね。」

私もうれしくなり、その場で丸をつけながら、間違えた問題を解説すると、「あつ、そっか」と、自分の席に持ち帰り、すぐさま直し始めた。数学の宿題の日には、これを繰り返した。

その後は、授業中も、友達に説明してもらいながら問題に取り組むA子の姿が見られるようになった。研究授業では、多くの先生が見ている中、手を挙げて発言した。授業後、「めっちゃ、緊張したあ」と言いながら寄ってきたA子は、ほめてくれと言わんばかりの笑顔だった。

今朝も教室の教卓にはクラス全員が宿題が積まれている。もちろんその中に、A子の課題もある。



く花のように自然に任せて咲き乱れる美しさもあるが、一つだけを大事に育てあげる菊づくりの美しさもまた格別である。継続と努力、心を通わせ丹精こめて育てあげ、自分だけの花を咲かせたときの喜びは何ものにも代えがたい。我が子を育てる母の想いにも似ている。私は、ここに教育的な意義を感じている。

菊づくりの歴史は古く、奈良時代中期に中国から遣唐使によってもたらされたと言われている。当時は薬草として利用され、不老長寿の妙薬とされていた。江戸時代前期に庶民の間に広がり、盛んに栽培されるようになった。今では秋になると全国各地で菊花展が開催され、秋の風物詩になっている。

昨今、学校でのいじめ問題が全国的に取り沙汰されている。子供たちの心を育てることは、学校教育の不变の使命である。人を思いやり、人の心の痛みが分かる子供。かけがえない自他の命を大切にすることは、どうしたら育てられるだろうか。私は、その方策の一つに菊づくりを推奨したい。

今年もまた、子供たちが素晴らしい大輪の花を咲かせてくれた。



国道一号沿いでは県内初の「道の駅」となる「道の駅藤川宿」が十二月九日オープンする。旧東海道五十三次の三十七番目の宿場町であった藤川宿にちなんで命名された。名鉄名古屋本線藤川駅に近接し、人の流れの多い場所である。

「道の駅藤川宿」は、市と国が整備し、国道一号を利用するドライバーの休息施設及び岡崎市の情報発信・地域振興の拠点としての役割をもつ。年間七十万人の利用を見込んでいる。平成十八年、藤川町に「道の駅をつくる」という案が出て以来、市や地元住民で構成する「まち・みち交流創造プロジェクト検討会」が設置され、何度も話し合いを重ねた。地元の藤川小学校の子供たちは、学区民に「どんな道の駅にしたいか」のアンケートと、自分たちの意見も合わせて提案書をまとめ、市に提出した。そして、平成十九年に藤川地区整備事業として、この「道の駅」と「東部地域交流センター」の建設が正式に計画され、今回のオープンに至った。

「道の駅藤川宿」では、コンシェルジュが地域や市内の観光スポットを案内したり、新たな特産物や郷土食などを開発したりする計画もある。

「東部地域交流センター」は「むらさき館」の愛称で親しまれている。市民活動・ボランティア活動等を支援し、災害時には防災機能も果たす複合的な交流拠点施設である。今年の八月二十五日に、市内四館目の地域交流センターとして、オープンした。

「道の駅藤川宿」を核とした地域の活性化が期待されている。



「道の駅藤川宿」ロゴマーク

◀江戸時代にこの地域で栽培されていたというむらさき麦を前面に配し、岡崎城と岡崎の花を臨むデザイン

「道の駅を藤川の発展のために」＝藤川小児童と「道の駅藤川宿」とのかかわり(平成18年度)＝



▲ 市役所都市計画課で藤川地区整備について都市計画課長から話を聞く児童



▲ 「道の駅を藤川の発展に生かすには」の授業風景 (6年生)



▲ 学区に「道の駅」ができることへの意識調査をする児童

〔藤川小提案書〕

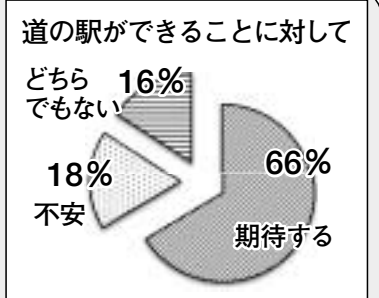


▲ 児童が考えた藤川宿のイメージ図

「道の駅」を藤川の発展に生かしていくために何をしたらよいか。

- ・藤川の歴史を知る場所。
- ・道の駅に来ただけで、藤川の歴史がすべてわかる場所。
- ・歴史ツアーを行う。
- ・体験コーナー(むらさき麦で馬作りなど)
- ・むらさき麦の栽培地。
- ・スタンプラリーで藤川の名所をまわってもらう。
- ・売店やレストランを作る。(むらさき麦のアイスやお茶、クッキー、ケーキなど...)
- ・岡崎の特産物や産物を売る場所。地域の野菜を売る場所。
- ・広い休憩所を作る。公園。
- ・足湯や入浴施設。

▲ アンケートをもとに要望をまとめたものの一部



▲ アンケートをもとに意見をまとめたものの一部

▼ 当時、このプロジェクトに参加した児童への今年度のインタビューより

道の駅が実際にできることになってうれしいです。要望した通り、宿場の雰囲気が出ている外観でとてもかっこいいと思いました。むらさき麦をロゴマークに採用してくれたのもうれしかったです。岡崎の名所や産物を紹介するコーナーやコンビニもあって、たくさんの方が来てくれると思います。きっと、藤川の歴史をたくさん知ってもらえると思います。

これからも地域の一人として見守っていきます。(平成24年10月7日)



▲ 意見や要望を助役さんへ説明する児童 (平成十八年十二月十五日)



東部地域交流センターも、市民協働という形で三回のワークショップを開催し、広く意見を収集したうえで建設された。開館記念式典後には「未来の藤川地区について」のパネルディスカッションが行われ、藤川小児童も参加した。

東部地域交流センター



▲ 歌川広重の藤川宿の浮世絵「棒鼻の図」

〈藤川宿〉

藤川宿の成立は、慶長6(1601)年藤川に「伝馬朱印状」が出されてからのことである。天保14(1843)年の「宿村大概帳」によれば、本陣1軒、脇本陣1軒、家数302軒、旅籠36軒、宿場人口1,213人の小規模な宿場であった。麦の穂が紫色の「むらさき麦」と「藤の花」が有名である。宿の西端の十王堂には「ここも三河むらさき麦のかきつばた」と芭蕉が詠んだ句碑がある。

お知らせ



● 教育最新情報

○ 第四十回岡崎市教育文化賞

本年度は、個人十七件、団体三十件、合計四十七件の推薦・申請があった。選考委員による厳正な審査の結果、次のとおり、個人二件、団体二件が受賞した。

〈個人〉

◆ 小山 三郎氏

弓道の普及活動と弓矢の伝統技術の継承

全国でも十数人しかいないと言われる、矢師の一人である。平成七年、福岡中学校で弓道体験と弓矢作りの実演を行った。それ以後、市内の小中学校を中心に、伝統文化である弓道の普及活動に取り組んできた。また、二〇〇五年に開催された愛知万博や岡崎

市図書館交流プラザ「りぶら」のオープニングセレモニーにおいて、弓道体験や弓矢作りなどを実施した。弓道のイメージを親しみやすいものにするため、愛知産業大学の佐藤教授と矢羽根のデザインを行うなど、先祖代々から伝わる技術を伝承しながらも、その時代に応じた取組みも行っている。

こうした文化の継承と、その普及につながる新たな研究に関して、氏の果たした業績は極めて大きい。

◆ 平岩 典子氏

フアブリックワークへの継続的な取組みと、新たな作品の創造

四十年ほど前から、日本の伝統的な刺繍しゅうの技術を駆使しながら、フアブリックワーク

に取り組んできた。布や糸など、様々な素材を使った絵画的な作品が表現する世界は、見る者を魅了し、高く評価されている。また、岡崎市において個展の開催や、岡崎市美術館の美側展への出展など、岡崎の芸術文化の発展に貢献してきた。現在では、このフアブリックワークの活動を県外へと広げている。さらに、子供の絵を生かした作品作りを始めたり、教養を高めるための教室の講師を務めたりするなど、教育に関与した取組みも展開している。

こうした長期的な取組みは、多くの人々に影響を与えただけでなく、今後も岡崎の教育・文化に大きく寄与することが期待される。

〈団体〉

◆ 岡崎市立南中学校

三十七年にわたり生徒が代々演じ続けてきた「南中劇」

昭和四十九年に開催した研究発表会を期に、南中劇に取り組み始めた。翌年からは「橋本増治郎」「竹千代の母」「志賀重昂」「本多光太郎」を

取り上げた。四つの劇を、三四年の周期で、継続的に文化祭で上演してきた。平成二十二年からは、南中学校の誕生や学区の岡崎駅に視点を当てた劇にも挑戦してきた。生徒たちは、劇を通して、岡崎の人、もの、ことに対する思いを深めている。岡崎を誇りに思い、先達の精神や岡崎の文化を受け継いでいこうとする心を育むことにつながるこの取組みは、教育的に意義深く、成果が高く評価されている。

こうした活動は、ふるさと岡崎を思う心を足場として、様々な世界で活躍する子供を育むことのできる価値ある取組みである。

◆ 岡崎市立竜海中学校

「わかる学習指導」を一貫したテーマとして四十九年間

継続してきた実践研究

「わかる学習指導」の実践研究を、昭和三十八年以来継続し、さらに年を重ねることに、その内容を深化させてきた。この研究の基本理念は、生徒が喜び、楽しく自主的に学習する姿を求めたものであり、

自ら時代を切り拓き、行動できる人間形成につながる、価値ある取組みである。また、今年で三十二回目を数える授業研究協議会には、毎年多くの方々が参加しており、研究の成果を市内外へと広げ、教育の発展に大きく貢献してきた。継続的に授業研究協議会を開催することで、長年わたって生徒に寄り添い続けた姿勢は、高く評価されている。こうした実践の積み重ねは、岡崎の教育の質の向上につながり、子供の健やかな成長に大きく寄与している。

◆ 授賞式 記念講演会

教育文化賞の授賞式、記念講演会は十一月十日（土）に岡崎市総合学習センターホールで行われた。

授賞式の後、俳優・声優の常田富士男氏に、「詩と童話で綴る常田富士男『あつたか話』」を演題に、ご講演いただいた。

今年度の講演は、四季の会・秋研修会を兼ね、七百人を超える方々が、常田氏のお話に関き入った。

●表彰

◆第60回全国統計グラフコンクール

女子カヤック一人乗り 優勝 新香山中二年 今村絢音
女子カヤック二人乗り 優勝 新香山中

◆第18回日本管楽合奏コンテスト

優勝 新香山中
今村絢音 大藏麻笑

◆第18回日本管楽合奏コンテスト

女子カヤック四人乗り 優勝 新香山中

◆第56回日本学生科学賞愛知県展

最優秀賞(県知事賞) 城北中一年 鳥居壮多
最優秀賞(県議会議長賞) 福岡中二年 畔柳 遥

◆第62回西三河中学校駅伝競走大会

名古屋商工会議所会頭賞 竜海中三年 清水友裕

◆第47回こども音楽コンクール

六ヶ所真衣・吉玉桃子
※以上二名は中央審査へ出品

◆第26回愛知県中学生英語弁論大会

最優秀賞 葵中三年 伊藤 楓
優秀賞 岩津中三年 中嶋華菜

◆第19回愛知県中学校カヌー大会

男女総合優勝 新香山中中学校
女子総合優勝 新香山中中学校

◆第60回全国統計グラフコンクール

入選 竜海中三年 大久保杏
パソコン統計の部 入選 北中三年

◆第47回こども音楽コンクール

最優秀賞 矢作南小学校
中学校合奏第一部門 最優秀賞 城北中学校

◆第18回日本管楽合奏コンテスト

優勝 新香山中
今村絢音 宮嶋里沙

◆第56回日本学生科学賞愛知県展

最優秀賞(県知事賞) 城北中一年 鳥居壮多
最優秀賞(県議会議長賞) 福岡中二年 畔柳 遥

◆第62回西三河中学校駅伝競走大会

名古屋商工会議所会頭賞 竜海中三年 清水友裕

◆第47回こども音楽コンクール

六ヶ所真衣・吉玉桃子
※以上二名は中央審査へ出品

◆第26回愛知県中学生英語弁論大会

最優秀賞 葵中三年 伊藤 楓
優秀賞 岩津中三年 中嶋華菜

◆第19回愛知県中学校カヌー大会

男女総合優勝 新香山中中学校
女子総合優勝 新香山中中学校

◆第60回全国統計グラフコンクール

入選 竜海中三年 大久保杏
パソコン統計の部 入選 北中三年

◆第47回こども音楽コンクール

最優秀賞 矢作南小学校
中学校合奏第一部門 最優秀賞 城北中学校

◆第18回日本管楽合奏コンテスト

優勝 新香山中
今村絢音 宮嶋里沙

◆第56回日本学生科学賞愛知県展

最優秀賞(県知事賞) 城北中一年 鳥居壮多
最優秀賞(県議会議長賞) 福岡中二年 畔柳 遥

◆第47回こども音楽コンクール

六ヶ所真衣・吉玉桃子
※以上二名は中央審査へ出品

◆第26回愛知県中学生英語弁論大会

最優秀賞 葵中三年 伊藤 楓
優秀賞 岩津中三年 中嶋華菜

◆第19回愛知県中学校カヌー大会

男女総合優勝 新香山中中学校
女子総合優勝 新香山中中学校

◆第60回全国統計グラフコンクール

入選 竜海中三年 大久保杏
パソコン統計の部 入選 北中三年

◆第47回こども音楽コンクール

最優秀賞 矢作南小学校
中学校合奏第一部門 最優秀賞 城北中学校

◆第18回日本管楽合奏コンテスト

優勝 新香山中
今村絢音 宮嶋里沙

◆第56回日本学生科学賞愛知県展

最優秀賞(県知事賞) 城北中一年 鳥居壮多
最優秀賞(県議会議長賞) 福岡中二年 畔柳 遥

●少年自然の家だより

○火おこしを体感する

キャンプサイトに向かう坂道にいくつもドングリが落ちていた。自然がいっぱいの秋も、たくさん学校や団体が「山の学習」を行った。常磐地区の連合小学校の子供たちは、少年自然の家特製の「火おこし器」を使って火をおこし、その火を大切に自分のテントサイトまで運んで炊飯活動をした。薪に火をつけることさえ大変なのに、マッチも使わずに自分たちの力で火種を取ることに挑戦した。太陽の広場を回って行く

着火剤を使い、簡単に火をおこしてしまうことが多い。しかし、自然の中で子供たちがいかに体を使い、感動し共感できるかが大切なのである。「苦労したけど、火をおこして作ったカレーライスは最高においしかった」と言ったC君の素敵な顔が忘れられない。各学校も、来年はこうした自然の中での火おこしや、石で組んだ直火の炉での焼き板作りなども計画してみてもうであろう。

十二月二十三日(日)には、所内の竹や木を材料に使って、冬のイベント「ミニ門松づくり」が予定されている。たくさんの子が参加して楽しい活動になるであろう。



・カ
ツ
ト
東
海
中
深
津
勝
巳

学級対抗歌合戦

(昭和59年)

写真提供：上地小学校

上地小学校は、岡崎小学校と福岡小学校のそれぞれの一部が合わり、昭和五十八年に開校した。

翌年四月、屋内運動場が完成した。完成記念として、全校の子供たちの心が一つになるような楽しい行事を行おうと提案された。そして、行われた行事が「学級対抗歌合戦」であった。児童会が中心となって行われ、審査も代表の子供たちが担当した。

二回目からは、「上地っ子文化祭」という名称に変わり、その後、学芸会の中で開催され、引き継がれていった。

開校当初の大きな希望や期待は、やがてその学校の文化・伝統に昇華していく。

平成二十五年、春、新たな中学校が誕生する。



- * 街場の教育論 内田 樹 ￥1,680
ミシマ社
- * 50歳からの音読入門 齋藤 孝 ￥1,260
海竜社
- * 発達障害と呼ばないで 岡田 尊司 ￥840
幻冬舎
- * 歩き続けよう 佐野 有美、藤本 美郷 ￥1,300
飛鳥新社

* 山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた

山中 伸弥、緑 慎也 講談社 ￥1,260

ノーベル賞受賞発表以来、著者に関する報道が数多くされている。研究の業績の大きさだけでなく、画面や紙面を通して、謙虚さやひたむきさ、気配りなど、著者の人柄が強く伝わってくる。本書では、子供時代からiPS細胞を作り上げるまでの歩みと研究内容、そして、その可能性が、関西弁を使った独特な語り口で記されている。

著者の考え方、生き方は、研究者としてだけでなく、教育者としての素晴らしさを感じさせる。

細川小 鈴木 武

シオ スア

岡崎の市民スポーツから、世界を舞台に活躍する審判員となった真野さん。卓球は老若男女関係なく親しめるスポーツ。ロンドンオリンピックの審判員が身近にいるということで、より多くの人々が卓球に取り組み、さらに岡崎の卓球が活性化していくことだろう。私も一歩踏み出して、卓球をやってみたくなった。

師走、国道一号沿いでは県内初の「道の駅」が、年の瀬に合わせて開駅する。

藤川小で、道の駅プロジェクトに参加していた子供は、もう高校三年生になった。建設中の道の駅の前を通るたび、今か今かとオープンを待ち望んでいたという。小さい頃に描いていた夢が、いよいよ形になる。

赤く上気した頬。汗ばんだ額。初めての駆け足タイムには、何度も立ち止まっていた子が、「がんばれ」の声に、こぶしをきゅっと握り直して駆け抜ける。疲れたから休むのではなく、疲れても走る。辛くても走る。暖冬続きで「耐寒」の冠はとれても、耐える機会であることは変わらぬ。自分に負けるな。走れ。

水仙の花が咲き出す季節。中国の古典では仙人のことを、天にある天仙、地にある地仙、水にある水仙と分けるそうである。冬場に開花する美しい花であり、また、香りもよいため、昔から多くの句にも詠まれてきた。開花を心待ちにしながら句を考えるのも、風情があるよ。